

令和7年度第1回 さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会

会 議 録

日 時：2025年7月31日（木）午後2時開会
場 所：TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通
ホール7C

1. 開 会

○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） ただいまから令和7年度第1回さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会を開会いたします。

皆様におかれましては、ご多忙のところ、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めます札幌市まちづくり政策局公民・広域連携推進室長の玉井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、今年度、新たにご就任をいただきました構成員の方々のご紹介させていただきます。

一般財団法人さっぽろ産業振興財団専務理事の一橋基様です。

一般社団法人札幌市医師会理事の小原雅人様です。

株式会社北洋銀行公金・地域産業支援部副部長の茅根伊知郎様です。

環境省北海道地方環境事務所次長の西野雄一様です。

社会福祉法人北海道社会福祉協議会経営管理部長兼計画策定担当部長の日置基樹様です。

なお、今回は所用によりご欠席されておりますが、株式会社北海道銀行地域創生部次長の久保雄一郎様にも構成員に新たにご就任していただくことになりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日お越しいただいておりますNPO法人e z o r o c kの草野様におきましては14時55分頃までのご出席と伺っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、皆様のお手元にあります資料の確認をさせていただきます。

まず、次第、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会構成員名簿、座席表のほか、資料1の第2期さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンに掲載している事業の進捗状況、資料2のさっぽろ連携中枢都市圏連携事業の実施状況、参考資料1のさっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱、参考資料2のさっぽろ連携中枢都市圏令和6年度連携事業実施状況の一覧、参考資料3のさっぽろ連携中枢都市圏関連スケジュール（2025年度）でございます。

資料につきまして不備がございましたら、事務局までお申し付けください。

続きまして、本懇談会の目的でございますが、参考1としてお配りいたしております「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱」の第1条に規定しておりますとおり、連携中枢都市圏ビジョンに関しまして必要な協議や懇談を行うという点でございます。

本懇談会でいただきましたご意見を通じ、よりよいビジョンにしていきたいと考えてございますので、何とぞよろしくお願いいたします。

また、資料1に第6条（会議等）という項目がございます。本日の懇談会には11名のご出席をいただいておりますので、第6条第3項に規定する定足数を満たし、会議が成立していることをご報告いたします。

続きまして、札幌市まちづくり政策局長の浅村からご挨拶を申し上げます。

○浅村まちづくり政策局長 札幌市まちづくり政策局長の浅村でございます。

本日、令和7年度第1回さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会の開催に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

まず、本日は、お忙しい中、また、お暑い中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃は、本市市政への特段の理解とご協力を賜りまして、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

さて、さっぽろ連携中枢都市圏は、「住みたくなる」「投資したくなる」「選ばれる」さっぽろ圏域を目指して形成いたしまして、人口減少・少子高齢社会におきましても一定の圏域人

口を有し、活力ある社会経済を維持すべく、圏域12市町村が一丸となりまして様々な連携した取組を行いながら魅力・活力あるまちづくりを推進してございます。

本日は、第2期ビジョンの初年度の令和6年度の実績をレビューすることを今回のテーマとしております。

まずは資料のご説明をさせていただき、さっぽろ圏の更なる発展に向けまして、それぞれご専門のお立場から忌憚のない貴重なご意見を頂戴できれば幸いです。限られた時間ではございますが、今後の発展に向けまして、活発なご議論を賜りますようよろしくお願いいたします。

簡単ですが、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。
○事務局（玉井公民・広域連携推進室長） それでは、以降の進行につきましては平本会長にお願いしたいと存じます。

平本会長、よろしくお願いいたします。

2. 議 事

○平本会長 皆様、改めまして、こんにちは。今日はよろしくお願いいたします。

冒頭にございました、新しい構成員の方も何名かご参加くださいます、また活発な御議論をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速、次第に沿いまして議事を進行したいと思います。

本日の議題は1件で、2の議題にございますように、さっぽろ連携中枢都市圏における連携事業の実施状況についてです。

まず、事務局よりご説明をいただきまして、その後に構成員の皆様方からご忌憚のないご意見、ご質問等をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では、ご説明をお願いいたします。

○事務局（紺野推進担当課長） それでは、資料に沿って、さっぽろ連携中枢都市圏における連携事業の実施状況についてご説明させていただきます。

まず、資料1をご覧ください。

こちらは、第2期さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンに掲載している事業の進捗状況について記した資料でございます。

まず、上の表ですが、こちらは全76個の各事業の評価指標の昨年度1年間に立てた目標に対し、どのような結果であったかという単年度の達成状況を記載したものです。

一部、バーという評価不可の評価をしているものがありますが、これは、目標を立てるとき、例えば、2028年に何かを策定するというような目標を立てているもので、昨年度の間だけでは評価ができないものとなります。

このうち、二重丸の達成となった事業は52指標ございまして、全体の約8割を占める結果となりました。

一方、バツの未達成となった事業が11指標ございまして、未達成になった事業は、今後、必要な見直しを行いながら、評価指標の達成に向けて引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、下の表です。

こちらは、計画期間の5年間に対して立てたKPI—重要業績評価指標についての数字です。現時点での最新のデータを記載しておりますが、例えば、表の一番下の20歳から29歳人口における道外への社会増減数については、基準値よりも道外の転出者数が増えている状況ですので、今後、これらの目標達成に向けて新たな取組の構築などに努めてまいりたいと考えてお

ります。

資料1については以上でございます。

続きまして、資料2です。

こちらは、令和6年度の主な連携事業の実施状況と令和7年度の新たな取組についてまとめている資料です。詳細は参考2としてお配りしている資料に一覧として掲載してございますので、適宜、そちらを参照していただければと思います。

それでは、1ページをご覧ください。

まず、上段の連携した企業誘致の推進です。

こちらは、さっぽろ圏域に工場や物流施設などを新設するために設備投資等を行う企業に対する補助を実施しているもので、令和6年度は石狩市にこの制度を活用しながら立地した事業者がございました。

続きまして、下段の創業の促進です。

こちらは、スタートアップ企業との協働により、北海道の地域課題の解決やスタートアップ企業の成長支援を目指す「Local Innovation Challenge HOKKAIDO」というプログラムを実施しているところです。昨年度は、小樽市の課題に対して事業者とのマッチングが行われました。採択されたトクティー株式会社という企業は、特定技能人材の雇用や定着の課題について、小樽市と連携し、地元企業・住民向けにセミナーを開催しております。

次のページ上段の新製品・新技術の開発のための支援をご覧ください。

令和6年度は、ものづくり開発・グリーン成長分野推進事業としまして、ヘルスケア・健康食品分野で江別市の電制コムテック株式会社と南幌町の株式会社スリービーという企業が採択されております。

続きまして、下段の地域資源の活用に向けた支援をご覧ください。

こちらは、廃棄される食品、原材料を使った食品の開発、あるいは、パッケージを工夫することによって賞味期限を延ばすことができるものの開発を行う企業に対し、サステナブル食品開発補助金の交付を実施しているもので、令和6年度は江別市の株式会社ベイクド・アルルという企業が採択されています。

次のページをご覧ください。

上段の救急医療の維持・向上等に向けた取組の推進です。事業概要ですが、医療機関案内と看護師による救急医療相談を24時間受け付けている救急安心センターさっぽろを近隣市町村も対象地域として運営しているものです。令和6年度は、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町が参加しておりました。また、今年10月からは新たに恵庭市が追加で加入する予定です。

続きまして、下段の公立夜間中学校の共同活用です。

事業概要としては、圏域における多様な学びを支える環境の充実を図るため、様々な理由により学び直しを希望する方を対象とした公立夜間中学の共同活用を行うというものです。令和6年度は、小樽市から2名、江別市から2名、千歳市から2名、恵庭市から2名、北広島市から3名の合計11名の方に在籍していただきまして、前年度の実績から1名が増加しております。

次のページをご覧ください。

上段の若者の出会い創出という事業ですが、こちらは令和6年度からの新規事業になります。内容としては、AIを用いたマッチングシステム等を備えるオンライン結婚支援センターを開

設し、出会いの場を創出するというもので、直近では毎月100件から150件程度のマッチングが成立している状況と聞いております。また、小樽市、江別市、千歳市、石狩市の4市で出張登録会及び相談会も対面で実施しています。

続きまして、下段の圏域外からの移住促進です。

こちらは、首都圏に在住している方々に対してさっぽろ圏の魅力を発信していくというもので、昨年度は東京の有楽町において移住フェアを開催いたしました。移住フェアでは、連携市町村の12ブースに加え、さっぽろ圏でのバス会社の採用情報や仕事内容を紹介又は相談対応などを行うバスのお仕事ブースを令和6年度から新たに出演しております。そのような結果、昨年度は来場者数が349名と、前年度の181人から大きく上回るご来場をいただいたところでございます。

令和6年度の実施事業については以上でございまして、次のページからは今年度の新たな取組をご説明させていただきます。

資料の5ページをご覧ください。

まず、上段の医療的ケア児レスパイト事業です。

こちらは、日常的に医療的ケアが必要な子どもの保護者の方が一時的に休息できるように支援を行うもので、医療保険による支援を上回って訪問介護を提供し、家族の負担軽減などを図るものです。札幌市におきましては昨年10月から本事業を開始しておりましたが、今年度からは圏域の8市町村にも拡大して実施しております。

続きまして、下段の固定資産の評価に係る家屋比準評価の導入です。

こちらは、家屋評価事務の合理化を図るため、現在行っている評価から批准評価法という評価方法に変更することによりまして、札幌市が委託業者の窓口となり、各連携市町村と情報共有をしながら事業を進めているものです。

次のページをご覧ください。

上段の官民連携の推進です。

札幌市では、官民連携の推進に向けまして、民間企業から提案していただく官民連携窓口を昨年7月に開設しました。令和7年度からは、この窓口の対象を圏域の市町村にも拡大しておりまして、専門サイトに小樽市と江別市の課題についても現在掲載しております。また、官民共創に係る研修を今月7月に実施しており、近隣の8自治体の職員合計36名の方々に参加をいただいたところです。

続きまして、下段の「広域行政を学ぶ」勉強会の実施です。

北海道大学におきまして自治体と組織的な連携を図る北海道大学自治体連携フォーラムが今年6月に設立されましたので、そのフォーラムと連携し、大学の知見を生かしながら様々な分野の広域連携の意義について職員の理解促進を深める機会として、大学の先生を講師としてお招きしながら勉強会を継続的に複数回実施するというもので、来月の8月に第1回を開催する予定です。勉強会への参加者は、札幌市職員のほか、連携中枢都市圏の職員と北海道の職員の方にも参加していただくことを考えております。

最後のページをご覧ください。

上段の圏域内の農産物のPR充実です。

こちらは、昨年度のビジョン懇談会でのご意見を踏まえて実施させていただくもので、さとらんの開園30周年を記念して開催されるイベントに合わせて連携市町村の農産物のPRを実施するものです。なお、開催は10月を予定しております。

下段の周遊促進による共同PRについてです。

こちらは、先ほどご説明させていただいた札幌市の官民連携窓口に民間事業者様からご提案をいただいたもので、現在、実施に向けて調整を進めているところです。実施内容といたしましては、各市町村の訪れてほしい場所で各市町村の特産物である野菜をテーマに設定したクエストをクリアすることによってポイントを集め、景品と交換できるというもので、各連携市町村のそれぞれの魅力を発見できるきっかけとすることを目的としております。

説明は以上でございますが、昨年度のビジョン懇談会でいただいたご意見なども踏まえながら、周遊促進など圏域の各市町村の特色を生かしていく取組に重きを置いて連携事業を進めているところです。

○平本会長 ただいまご説明していただきました事業の進捗状況並びに実施状況について構成員の皆様方からご質問、ご意見、コメント等がございましたらご自由にご発言をいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○李副会長 達成状況としては8割を超えているということで、すごく良くなっているのかなと思います。しかも、スライドに書かれておりますとおり、様々な分野でいろいろな市町村が合わさった形で取り組んでいるということで、例年よりもプラスの状況がたくさん見られたと率直に思いました。

ただ、資料1の1ページの一番下に書かれているように、20歳から29歳までの方々が道外に出ていく状況が更に拡大していることがどうしても気になっていまして、このデータをもう少し分析していただくことは可能でしょうか。

例えば、20歳から29歳までの方たちの内訳です。20歳前半なのか、20歳後半なのか、どこに行くのか、あるいは、逆に入ってくる方もいると思いますので、どこからどういうUターンやIターンがあって、その条件はどうなっているのかも気になりました。もう少し詳しいデータがあれば対策もしやすいのかなと思いますので、お願いします。

○事務局（紺野推進担当課長） データとしましては、今、手元にこれ以上細かいものがございませんので、分析がし切れていないところですが、経年の傾向としましては、コロナ前の数字に戻ってきているところがあるのかなと思っておりまして、これをどうやって少なくしていくのが今後の課題かなと認識しております。

○平本会長 2年ぐらい前でしたか、草野構成員から、20代は流出が多いけれども、実は30代は流入しているというようなお話があり、その後、事務局に調べていただいたら、実際にそういう傾向があったということで、今回は20代にその指標を置いています。20代が出ていっても30代が帰ってきてくれるのなら、必ずしも悪い傾向ではないのかもしれないと思うのです。

ですから、KPIの設定、それから、最終的になぜ20代だけにフォーカスしているのかということも含めて、少し検討の余地があるのではないかと思います。

○草野構成員 私も同じ部分についてお話をさせていただけたらと思っていました。

ここでのKPIを20代にフォーカスしているというのは、数値として置いていると思いますので、こういうふうに掲載していくことになるんだと思うんですが、30代の方は生まれたまちに子育てをされる、20代の方はチャレンジで行き、また戻ってくるということで、それは決して悪い話ではないと思います。補足として、可能であれば30代前半が少し増えているのか、もしくは、そこが減ってきているのか、そうであれば手を打たなければいけないのかなと思いますので、今後はそれも併せて説明していただけると考えやすくなるかなと思います。

○平本会長 今の補足等も含めて、資料にそういうことが反映されているとより議論しやすく

なと思いますので、よろしくお願いいたします。

ほかにはいかがでしょうか。

今日は今構成員がお休みで、もし今構成員がいらっしゃれば、移住フェアのバスのお仕事ブースのお話を聞かせていただけたのかなと思うのですが、ちょっと残念ですね。

どのようなことでも結構ですし、お気づきの点、気になる点、ご質問をいただければと思います。

○生川構成員 同じ部分になるのですけれども、重要業績評価指標—K P I のところです。観光入り込み客数の目標値は、多分、コロナのときに設定されていたのかなと思われます。既に超えているという認識でいますが、これを今後変える予定はないのか、聞かせていただければと思います。

○事務局（紺野推進担当課長） 業績評価については5年間で達成するものとして初期に設定するという仕組みになっておりますので、この期間中はこのままとさせていただきたいと思っております。しかし、ご指摘のとおり、既に達成しているという状況もありますので、ここを今後どうしていくのか、次期計画の策定のときにどう立てるのかは引き続き検討させていただきたいと思います。

○平本会長 観光入り込み客数ということで、いわば「数」を目標設定数値にしているのですけれども、近年、オーバーツーリズムの問題なども指摘されていますので、単純に数を追う政策でいいのかも考えておく必要があるのではないかと思います。

ほかにはいかがでしょうか。お気づきの点、どのようなささいなことでも構いませんので、もしございましたらご発言をいただきたいと思います。

○李副会長 資料2の4ページの若者の出会い創出のところですか。

先ほど、毎月100件以上のマッチングが行われているというお話があったのですが、実際にマッチングした後のフォローなどはされているのでしょうか。

○事務局（紺野推進担当課長） 昨年度末時点では成婚という結果には至っていなかったようですが、現在、5組の成婚件数があり、いろいろなフォローの結果、そうなっているのかなと思っております。

○李副会長 もう一点です。

最後のページで、私から提案をさせていただいたさとらんの記念イベントに4市町村が参加してくださるということで、大変ありがとうございます。

ちなみに、日にちは10月の11日、12日、13日で、今、イベントを企画しておりますので、ほかの市町村からも更に参加していただければ助かります。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○西野構成員 資料2の2ページの地域資源の活用に向けた支援のところにサステナブル食品の開発と書いてあるのですが、どのような事業なのか、差し支えなければ教えていただけますか。

○事務局（紺野推進担当課長） 食品ロスなどをなくすために賞味期限を延ばすような製品開発をするほか、そういうパッケージを支援するというふうに聞いております。

○西野構成員 採択は1事業者ですか。

○事務局（紺野推進担当課長） 連携中枢都市圏の事業者として1事業者という意味で記載しております。札幌市の企業はほかに11事業者を採択しております。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○草野構成員 情報提供になります。

私たちはサイクルシェアのポロクルの現場運営もやっている団体でして、私はその役員もやっているのですが、インバウンドの観光の利用がものすごく伸びていますし、現場の肌感として、また、お話を聞いていても、まだまだ来るだろうと思っています。自転車の現場でも利用が増えているわけで、今日の観光の入り込みというところを見ましても、私の実感と一致しているなと思っていました。

もう一つは質問です。

ベジタブルクエストなど、民間の事業者や、例えば、大学やNPOなど、何でもいいのですが、連携中枢都市圏にこういうことはできますかと相談できるところ、ある意味、窓口機能みたいなものも担っていると思うのですが、こういうものは増えている傾向にあるのですか。

私も大学と連携しながら田舎のほうに人を送るという事業もやっていますが、そういったことのほか、最近では、札幌のIT企業が地域貢献に協力したいということで、私たちとパートナーシップを組み、過疎地域に一緒に入るといってもやっています。行っている場所は石狩の浜益になりまして、そうなってくると、民間の部分で、広域連携といいますか、人の動きがつかれてきていると思っています。

よく考えたら、こういった話は事務局の皆さんとも共有、相談できるほうがいいのかと思っていましたのですが、そういった相談は来ているのか、ほかにもこういう事例があるのか、お聞きしたいと思います。

○事務局（紺野推進担当課長） 官民連携窓口自体は昨年度から公式に設置したもので、設置してから連携中枢都市圏のご相談もいただいているので、そこからの増減というのは申し上げられないかなと思っています。

その前ですと、特定の企業からはありましたけれども、今まで我々とコネクションを持っていないような事業者から連携中枢都市圏でといったご相談をいただくことはあまりなかったかなと思いますので、窓口を設置したことによって一定程度の効果はあるのかなと思っています。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

○高橋構成員 資料1の真ん中辺りの達成した主な事業の中で生活のナンバー35の鳥獣対策等に関する取組の推進とあります。これは二重丸の評価ですが、参考資料2の18ページのナンバー35が鳥獣対策等に関する取組の推進の2024年度の評価だと思います。

評価指標の実績値が二重丸について、厳しいことを言うわけではないのですが、二重丸の根拠である取組実績として、職員向け研修の開催や会議開催、アンケート実施などをやったのだらうなというのは分かります。ただ、2025年度以降もこういうルーチンワーク的なことをやることによって、二重丸なのかということをあえて問いたいです。

この鳥獣害対策というのは、北海道民にとってもそうですし、私は農業団体の者だからこそ言うのですが、農業被害は、熊に限らず、鹿も含めて本当に深い問題だなと思っています。北海道民の方々や農家生産者の方々の不安を本当にどうやって解消していくのかは、ものすごく根深いもので、先ほどの人口減少とも絡んでくるのかなと思うぐらいの問題だと私も思っています。

例えば、札幌市の領域ではないかもしれませんが、狩猟免許を取得する人をもっと増やすということがあるかと思っています。銃を持っている方も本当に高齢化しているのです。それが誰でも気軽にと言ったらリスクも伴うことになりますが、レジャーと言ってしまうと語弊があるかもしれないのですが、負担感なく狩猟免許を持てないかです。

一方で、若い女性が狩猟免許を持つ動きもありまして、ハンターは格好がいいなどということと、女性でもハンターになれるような社会環境をどうつくっていただけるかと思います。何を言いたいかというと、鳥獣対策について少しでも前向きに捉えられるようにどうしていくかが一番大事ではないのかなということです。

本当に難しいことだと思うのですが、これで二重丸を付けたとき、2025年度以降は何をするのか、ちょっと気になったということです。

○事務局（紺野推進担当課長） 指標の立て方がこれで適切なのかというご意見かと思いますが、ご意見の趣旨は十分に理解してございます。

鳥獣対策につきましても、各市町村でそれぞれやっていることに加え、連携することによってどういうメリットが生まれるのかはもう少し研究させていただいて、より効果があるといえますか、ご指摘のような点もカバーできるような取組ができるのかどうか、所管部局とも相談しながら次年度以降の取組を検討させていただければと思います。

○平本会長 多分、目標値が年1回以上の開催と書いてあって、これでいくと、会議を1回やると二重丸が付くという立て付けになっているのですよね。でも、実際は、1回どころではなく、いろいろな会議をしたり、アンケート調査をしたり、訓練もやっているということで、この評価に照らせば、二重丸だけでも、現状からするともうちょっと深刻な鳥獣被害があるでしょうというご指摘だと思うのです。

もちろん、連携中枢都市圏として何ができるかということでこういう目標が設定されていると思うので、その情報共有を、あるいは、事業概要のところにありますように、DNA識別体制の構築によって問題のある動物を特定できるようにするなど、広域都市圏だからこそのメリットもこの中に入っていると思うのです。

例えば、問題のあるヒグマを捕獲して、それがたまたま市町村の境界を越えたところで捕獲されたというような事例があれば、そういうものは一つの成功事例になると思います。

また、高橋構成員がおっしゃっているのは、もうちょっと積極的なハンターの育成も含めたことですね。それはおっしゃるとおりで重要だと思うのですが、まずは、連携中枢都市圏でできることで実績が上がっていったものを少しずつ丁寧に拾っていく、小さな一歩かもしれないけれども、前進していくということなのだろうと思います。

ただ一方で、やはり深刻な問題ではあるので、この連携中枢都市圏でもうちょっと踏み込んでできることはないのかについては検討の余地があるかなと思いながらお話を伺いました。

ほかにはございませんでしょうか。

○草野構成員 今、北海道情報大学の方と一緒にエゾシカのお肉をどうやってもう少し流通させられるかということをやっています。最近ですと、大学でもエゾシカに対する関心が非常に高く、エゾシカの肉に関するゼミの研究でプロジェクトを一緒にやりましょうという話もいろいろなところからいっぱい来るのです。

ただ、ジビエのうち、エゾシカに関して言うと、もともとは道東からだったのですが、石狩のほうはここ最近です。もともといたのですが、数がかなり増えてきて、農業被害がついに日本海側まで出てきたかというような感じです。去年ですと、お世話になっている果樹園のリンゴが7割ぐらいやられてしまっていました。そうすると、今度はハンターの話になりますが、鹿を捕らなくてはという話になるのです。でも、ハンターが少ないのです。

もう一つ、需要喚起の観点からですが、鹿肉の需要が意外と伸びていないという話も聞いています。ですから、鹿肉を食べることに興味をもっと高めていくことで経済を回しながらというのは皆さんも何となく思っていて、あの手この手といろいろと打っているところですが、な

かなか需要が伸びていないです。

ただ、鳥獣対策の入り口としては、需要喚起策も含め、エゾシカのお肉を連携中枢都市圏の方や都市部の人たちに食べていただくということがあるかと思います。今、私はクリスマスにジビエ肉を食べようキャンペーンをやろうとしているのですけれども、そういう取組をこういったところで共有していくのは意味があるのかなと思いました。

○平本会長 もしご知見があれば教えてほしいのですが、今、鹿肉を食べることについてボトルネックになっているのはハンターが少ないからなのか、それとも、撃つ人はいるけれども、血抜きを含めた適切な食肉加工がうまくいっていないから味が悪く、あまり普及しないのか、はたまた、そもそものニーズが全然ないのか、どうなのでしょう。

○草野構成員 高橋構成員のほうが詳しいかもしれませんが、今、私たちの団体でも鹿肉をオホーツクのほうから仕入れ、お肉の代理店というか、販売許可を取って札幌で売れるようにしたのですね。ただ、なかなか日常的に流通していないので、買おうと思ったとき、札幌市内だったらコープさっぽろにおいて店舗限定で鹿肉の販売をやっていると聞きしています。どこの店舗でも売っているわけではなく、まずは手に入れたときにどこに売っているかが分りにくいということが一つあると思います。

もう一つ、聞く声として調理方法が分からないというのがあります。高たんぱく、低カロリーで鉄分多めなので、女性など、鉄分が不足しがちな方には非常にヘルシーでいいというふうに言われていますけれども、どういう食べ方をしたらいいのかという情報が消費者の皆さんに届いていないということもあると思います。

ちなみに、ハンターが撃った後に食肉処理をするための食肉加工施設をつくらなければいけないのですね。これは、ハンターが撃った後、数時間以内に食肉加工施設まで持ち込まなければいけないという条件があるからですが、それが石狩市にはないのです。少し距離があるところだと、鹿を撃っても地元で自家消費するしかないというふうになってしまいますので、流通しないというような状況になっています。

○平本会長 なぜこんなことをお尋ねしたかという、仮に少し面倒くさい規制がかかっているとしたら、この連携中枢都市圏全体をジビエ特区のように、それを少し緩和するような仕組みができないかとか、せっかく連携中枢都市圏なのだから、そういうことを考えられないのかなと思ったからなのです。

例えば、今おっしゃった食品加工施設について、何か少し補助を付けて圏域内でうまく利用できるようなポイントにつくるということができるといいなと思ったところです。

○草野構成員 夢物語的にはなってしまうのですが、ジビエカーというのは出てきています。僕も詳しいわけではないので、にわか知識ですけども、ハンターが撃った後から食肉処理施設までのところが1次処理で、その後、精肉とするのが2次処理になるはずなのですが、ハンターが撃った後に食肉処理施設へ届けるまでの時間がかかり過ぎるので、なかなか難しいのです。

そこで、例えば、このジビエカーを共有利用化するということは、ひょっとしたら意味があるかとも思いましたし、興味を持っている方もいらっしゃると思います。

○平本会長 ちょっとヒントになりそうなこともありましたので、ご研究というか、お勉強していただけるといいかなと思いました。

ほかにはいかがでしょうか。

○小原構成員 圏域全体の生活関連機能サービスの向上①の中の救急安心センターさっぽろの運営についてです。

僕自身は内科医ですが、資料を拝見すると、救急安心センターさっぽろの共同利用として、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町等が参加とあります。今、ウェブで調べてみたら、北海道で＃7119が機能しているのが事実上はこれだけで、ほかの自治体はこういう仕組み自体を持っていないのです。

ご質問としては、ここに共同参画していない自治体に参加するに当たり、何かハードルみたいなものがあるのかということです。要は、このサービスというのは、本来、均てん化されるべきもので、全道どこでもすべからく受けられるべきものだと思うのです。救急安心センターさっぽろに入っているという仕組みはあるけれども、参加していただいていない自治体に何かのネックがあるとすれば、それを改善し、ここに書かれている自治体全てが入ってくると非常に好ましいなと医師の視点としては思います。

特に、僕自身、千歳市での勤務経験もあるのですが、札幌からちょっと遠い自治体の市立病院の救急というのは結構すごいことになっているので、適正利用の面でもこういうサービスは絶対に広がるべきと考えています。何か情報をお持ちでしたら教えてください。

○事務局（紺野推進担当課長） 加入されていない自治体の理由までは把握していなかったのですが、加入するときの負担金といいますか、費用面のこともあるのかなと思います。それ以外の理由があるかどうかを確認し、もしあれば、後日、お伝えしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○平本会長 重要なお指摘だと思います。圏域全部の自治体が入って＃7119が使えるようになれば、いろいろな意味で医療資源の負担を平準化することにつながると思いますので、理由も含めて、それから、自治体に入っていただきづらい事情があるとしたら、そのボトルネックを解消するためにはどうしたらいいかについてもご検討をいただければと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○茅根構成員 資料1の中に達成度の評価不可のものが76件のうち10件ありまして、どういふものかなと見たとき、先ほど出てきた若者の出会い創出がその一つになっています。評価不可なので、数値は入っていませんが、目標値が115組になっていますよね。令和6年度は何件と先ほどおっしゃっていましたか。

○事務局（紺野推進担当課長） 成婚件数は0件です。

○茅根構成員 せっかくいい取組をやっているんで、2027年度までで115組ということであれば均等のラップを刻んでいくほうがいいのではないのでしょうか。例えば、おおむね達成であれば、オンパースからは遠い感じになっているので、その辺りも分かるようにしたほうがよいのかなと思いました。

せっかくいい取組なので、軌道修正されてはと思います。これに限らず、不可にしてしまうと議論に上らなくなってしまう可能性もあるので、どういうラップでいくのか、そのラップに対してどうなのかという評価をしていただいたほうがより関連な議論につながるのかなと思いました。

○事務局（紺野推進担当課長） 指標の立て方が適切なのかということだと思いますが、その辺りは、改めて次年度に向けてより適切な方法を検討させていただければと思います。

○平本会長 確かにそうですね。均等ラップでいくのか、加速度的にいくのかによって達成したかないかは変わってくると思いますし、おっしゃるとおり、目標の設定の問題だと思いますので、これも少し検討していただければと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○立藤構成員 資料1の達成状況で項目が三つあって、2の高次の都市機能の集積・強化のと

ここでK P Iの札幌駅の乗車人員数とあります。これはJ Rですか、それとも、地下鉄ですか。
○事務局（紺野推進担当課長） 地下鉄とJ Rの両方でございます。

○立藤構成員 この項目は8項目あって、六つが達成済み、二つが評価不可となっています。
K P Iの実績値を見ると、16万2,000人で、目標が19万1,000人となっていますが、取組も達成済みで、伸びしろがなかなかないような気がしないでもないのです。

最初は、J R札幌駅だけを想像していて、1日3万人の伸び代というのは物理的にあるのかなと思っていたのですが、地下鉄も含めると余裕なのか、そこが分かれば教えていただきたいです。

○事務局（紺野推進担当課長） 3万人をどう埋めるのかというのは現状では明確な解決策を持ち合わせておりません。また、かねてから、高次の都市機能の集積・強化に対し、札幌駅の乗車人員数が適切な指標なのかはこのビジョン懇談会でも何回かご指摘をいただいております、課題として認識しているところです。そのため、次の計画に向け、より適切な指標にするといえますか、この指標自体を検討したいと思っております。

現状では、他の圏域等でも中心駅の乗車人数としているところが多いためにこの指標を設定しております。

○平本会長 今年は札幌市の乗降客数が去年より多いのです。理由は簡単で、ファイターズが強いからです。また、今は札幌駅の構内で改装をやっておりまして、今後、駅ナカの施設が充実しますと、それに伴って利用者が少し増えるだろうということをJ R北海道は見込んでいると聞いております。

ですから、そういう外部環境によって、若干、この数字が変動することはあり得ると思うのですが、いかにせん、これが本当に高次都市機能の集積・強化の指標でいいのかということが根本的な問題だと思います。代理変数としていいものがなかなか見つからないことも事実ですが、これは課題としていろいろな部局とも検討していただき、いい指標があれば、ないしは、複数の指標で測ることができればよりいいのかなと思います。

お時間がまだ若干ございますが、いかがでしょうか。

○日置構成員 資料2の4ページの圏域外からの移住促進のところで、2点、分かれば教えていただきたいことがあります。

圏域合同で首都圏での移住フェアを開催されたということですよね。来場された方の中で実際に移住に前向きなケースとかお話があったとき、それぞれの市町村の移住の関連部局で対応するという仕組みなのでしょうか。

2点目は、バスのお仕事ブースを新たに出展されたということです。ご承知のとおり、福祉業界でもかなりの人材不足が挙げられていまして、私どもでも、道外のこういった移住・定住フェアにブースとして出展し、地方への移住が多いのですが、そういったお話をさせていただく場面があります。今回、さっぽろ連携中枢都市圏の中でバスのお仕事ブースというのはどういったきっかけで出展されたのか、お聞きしたいです。

○事務局（紺野推進担当課長） まず、1点目の実際に移住にご興味を持たれた方への対応についてです。実人数は把握していないのですが、流れとしましては、各ブースで各市町村の担当がお話を聞いておりまして、その後のフォローは市町村ごとに行い、ご興味を持たれた方は各市町村で引き続きフォローをしているという状況です。

2点目のバスのお仕事ブースの出展のきっかけは、昨年度のビジョン懇談会の場でバス運転手の人手不足のご意見をいただいたことを踏まえ、このようなブースを設置したという経緯です。

○平本会長 ほかにいかがでしょうか。

予定されていた時間に近づいておりますが、もしご発言があればどうぞご遠慮なくいただきたいと思います。いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○平本会長 本日の議題はこの1件でございます。皆様から多数のご質問やご意見をいただきましたし、事務局でご検討、あるいは、お勉強していただくような課題も出していただけたと思います。

本日の懇談会でのご議論を踏まえまして、今後、この事業が一層よく進みますようお願いして、本日の議論は閉じます。

事務局より何かご連絡がありましたら、お願いいたします。

○事務局(玉井公民・広域連携推進室長) 本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

指標に関するご指摘につきましては、そのとおりだなと思いながらも、我々としてもどういう指標を置いたらいいのかということもございますので、次のビジョンに向けて、皆様のご意見も伺いながらよろしい指標を置きたいと思っておりますし、圏域で何ができるかに関し、やれることはまだいろいろあると思っておりますので、来年度、再来年度に向けていろいろと仕掛けていければと思っております。

また、ご質問をいただき、こちらでお調べしますとお答えしたものについては、後ほど調べて、皆様に結果をご報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今後、年次更新について構成員の皆様にご意見をお伺いする機会がございますので、そのときはどうぞよろしくお願いいたします。

3. 閉 会

○平本会長 それでは、以上をもちまして本日の懇談会を終了したいと思います。

皆様、ご参加をいただきまして、どうもありがとうございました。

以 上